

運営基盤拡充



学校建設 200 棟募金の支援で建設が進む、コンボンチャム県スクン小学校を視察する小山内代表、佐伯理事。(2008年3月)

記念募金」の反響による所が大きいが、このことは、当会の支援の裾野が広がり、その規模が拡大したことを示しており、認定NPO法人として当会の実績が高く評価された成果と思われる。

特に最近では認定NPO法人に対する一般の理解も少しずつ広まり、寄付を申し出るに当り、認定NPOか否かを確認する個人、法人も目立つようになった。また、ここ数年は遺贈と言う形での寄付も年に数件ずつ出始めているのも認定取得後の顕著な特徴である。

(2) 支援者情報

JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金

2006年5月15日に本基金がスタートし2年を迎える。藤原紀香さん撮影による写真展「Smile Please!」を今年度は静岡、東京ミッドタウン内フジフィルムスクエア、大阪などで開催。本基金に賛同くださる皆さまから寄せられるご寄付、写真展への募金、そして藤原紀香さんご自身から著書『紀香魂』印税を（JHPを含む3団体へ）ご寄付いただいたことで、紀香さん自身が強く望んでいたカンボジアでの学校建設をJHPを通じて実現。この3月には贈呈式出席のため訪カ。CCHの子どもたちとも触れ合い、ゴミ山も視察。2008年3月末日現在、基金HPへの総アクセス数（2006年5月）は11万2700件を超え、今年度寄せられたご寄付は570万3217円となった。（藤原紀香さんからJHPのほか計3団体への著書印税寄付含む）。

(3) 会員の状況

会員数はここ数年、引き続きして漸減傾向である。今年の新入会員数は前年と比較して、ほぼ横ばいであるが、一方で退会者の増加が目立った。なかでも、当初からの会員が逝去、若しくは高齢化して退会したケースが例年に比較して顕著であった。

都道府県別では東京が8人増加した一方、千葉、神奈川、愛知等の都市圏でやや減少した。そのほかの地区は、全般的に減少傾向にあり、総数では26人の減少となった。そのなかで、特別会員が3名増加したのは特筆すべきことといえる。

継続して会員になっていた多くには、会員へのきめの細かい対応が必要になると思われるため、今後、広報活動等から力を注いで会員数の増加を図っていきたい。

(4) 各種助成金申請

申請業務(13件)

今年度は13件申請したところ、国際ボランティア貯金普及センター（啓発事業）、国際ボランティア貯金（学校建設2事業、音楽支援の計3事業）、一食平和基金（学校建設）、JICA地球ひろば（NGO強化のためのアドバイザー派遣）の6件の配分が決定した。不採用は3件、結果待ちは4件となっている。

会員の内訳		人数	前年比増減
継続	特別会員	35名	0名
	個人会員	934名	-30名
新規会員		154名	+4名
合計		1,123名	-26名

1. 財源確保

(1) 認定NPO法人関連

当会は、2004年1月に「認定NPO法人」の資格を取得したことにより、寄付された方に対して税制上の優遇措置があたえられるようになった。以来、4年を経過して、今年度は第3回目の再申請の時期に当たったが、特に問題なくさらに2年間の認定期間延長が認められた。

この4年間、寄付総額は安定して年間1億5000万円以上を継続し、認定前の平均1億円前後に対して、50%の増加を見ている。また、寄付件数についても増加しており、特に今年度は前年度よりも667件増えた。これは15周年事業の「200棟

助成金による事業(10件)

会員の推移

都道府県名	06年度	07年度	増減
北海道	49	51	+2
青森	5	4	-1
岩手	2	2	0
宮城	14	11	-3
秋田	1	2	+1
山形	3	3	0
福島	7	6	-1
茨城	17	13	-4
栃木	8	5	-3
群馬	10	11	+1
埼玉	67	63	-4
千葉	79	73	-6
東京	378	386	+8
神奈川	219	216	-3
山梨	9	8	-1
長野	7	6	-1
新潟	5	3	-2
富山	3	4	+1
石川	8	10	+2
福井	1	0	-1
岐阜	6	5	-1
静岡	49	50	+1
愛知	30	24	-6
三重	6	7	+1
滋賀	3	5	+2
京都	18	15	-3
大阪	29	25	-4
兵庫	16	13	-3
奈良	6	6	0
和歌山	1	1	0
鳥取	0	0	0
島根	2	3	+1
岡山	12	11	-1
広島	9	10	+1
山口	2	4	+2
徳島	1	0	-1
香川	2	2	0
愛媛	4	3	-1
高知	1	0	-1
福岡	23	22	-1
佐賀	1	1	0
長崎	2	2	0
熊本	13	14	+1
大分	4	5	+1
宮崎	2	3	+1
鹿児島	13	13	0
沖縄	2	2	0
合計	1,149	1,123	-26

る。今年度は、15周年記念祝賀会時に、幸せの子どもの家(CCH)の子どもを招聘した際にマイルを使用するなど、国内外の活動時に役立っている。

古本(Book Smile企画)

2006年10月より、古書店つさぎ書林と協力し、古本のリサイクル募金をスタート。当会会員、協力者に広

今年度は、NGO支援無償資金(学校建設)、国際ボランティア貯金(学校建設・音楽支援の2事業)、大阪コミュニティ財団(学校建設)、国際交流基金、港区NPO活動助成金(以上、国際ボランティア・カレッジ)、連合「愛のキャンパス」(CCH支援)、国際婦人福祉協会(ボランティア派遣)、国際ボランティア貯金普及センター(啓発事業)、JICA地球ひろば(NGO強化のためのアドバイザー派遣)の10件を実施した。

(6) 各種収集による財源確保

書き損じ葉書・切手

書き損じ葉書を集めて通信費を削減する運動を継続。2007年度は9万3052円分の通信費の削減に繋がった。(運動開始からの累計は180万1569円)

マイレージ

当会は、ノースウエスト航空の社会貢献(エアケアーチャリティープログラム)の寄付先選ばれている。これまでの総マイル獲得数は153万3058マイル(前年度より35万9058マイル増加)で、残マイル数は52万0558マイルとなっている。

(7) 寄付サイト

当会は、環境アリーナ研究機構、国際協力NGOセンター、ユナイテッドピープル、ヤフー(株)が運営する寄付サイトに参入し、それぞれ寄付を受けている。

2007年度は、の「NGOアリーナ寄付サイト」より66万5259円、の「NGOサポート募金」より5546円、の「イーココロ」より25万6879円、の「インターネット募金」より16万3062円の寄付収入があった。

(5) 各種募金活動

海外活動費の一部を募るため、各種イベントや講演会でカンボジア製品、バザー品、書籍等の販売や募金活動を行った。

200棟募金 十五周年記念事業

2007年4月より、1人1万円で600人分の募金を集める活動を開始し、年度内に目標額を達成した。支援先校はプノンペンより75キロ、1時間

理事会・総会の開催について

会議名 開催日	主な審議事項
第59回理事会 2007年4月24日	1. 2006年度事業報告及び収支決算 2. 2007年度事業計画及び収支予算 3. 2007年度総会の開催及び報告事項 4. 2007年カンボジア8月隊派遣 5. 国際ボランティア・カレッジ第二期事業計画 6. 理事の選任 7. 職員の採用 8. 当会より派遣するJEN理事の代表理事就任
第60回理事会 2007年5月23日	1. 個人情報保護法に関する規則の制定
会員総会 2007年5月26日	1. 2006年度事業報告及び収支決算 2. 2007年度事業計画及び収支予算 3. その他
第61回理事会 2007年6月28日	1. 2007年カンボジア8月隊の派遣者変更 2. 15周年記念祝賀会へのCCHの子ども達招聘 3. 職員の採用 4. 職員の退職に伴う餞別金の支給 5. 事務所移転に伴う住所変更 6. 2007年度中期学校建設事業
第62回理事会 2007年7月24日	1. 監事のカンボジア出張 2. 『第22回国民文化祭 TOKUSHIMA2007』への役員及び事務局派遣 3. 職員の採用
第63回理事会 2007年9月4日	1. マーチングバンド指導者派遣 2. 支援物資用倉庫借り入れの件
第64回理事会 2007年10月23日	1. 理事に対する国際ボランティア・カレッジ講師謝礼金の支払い 2. 事業活動総合保険の加入 3. 2007年度学校建設事業
第65回理事会 2007年11月27日	1. 国際ボランティア・カレッジのカンボジア研修計画 2. カンボジア絵画展の企画修正 3. ジャパンプラットフォームへの入会
第66回理事会 2007年12月27日	1. CCHの子どもの日本での研修 2. 2007年度後期学校建設
第67回理事会 2008年1月29日	1. プノンペン事務所就業規則の改定
第68回理事会 2008年2月20日	1. 2008年度事業計画及び予算案 2. 2008年度前期学校建設事業 3. プノンペン事務所就業規則の改定 4. プノンペン事務所ローカルスタッフの採用
第69回理事会 2008年3月31日	1. 理事の就任 2. 監事の就任 3. 代表理事及び副代表理事の互選 4. 2008年度前期学校建設の追加 5. 200棟スタディツアーの開催

おり、NPO事業サポートセンターが実施する事業等で連携が続いている。

2. 協力団体との提携

(1) みなとNPOハウス

JHPは、2001年8月より六本木の廃校（旧三河台中学校）に移転し、2007年6月末まで事務所とした。当会入居の1年後から他団体も入居し「みなとNPOハウス」となり、共同のイベントや協議会を通して交流を深めてきた。「みなとNPOハウス」は行政とNPOのコラボレーションのモデルとして評価されてきたが、区が行った耐震調査の結果、震度7程度の地震が起ると一部崩壊の危険があることが判明し移転を余儀なくされた。

入居団体はそれぞれの移転先で活動を継続して

(2) その他協力団体

加入団体との連携（24ページ参照）

今年度は9団体に加入し、活動展開の為の様々な情報を得ることができた。詳細は24ページの表に示した通り。

災害時の緊急募金

今年度はハングラデユのサイクロン被害に対して募金活動を行い、同国で活動するNPO法人シャ

プラーニルに対して2万2760円を寄付した。その他、理事会や運営協議会において、当会の災害救援活動の方針や資金的な枠組みについて話し合いを行った。詳しくは2008年度事業計画を参照。

NPO法人「ミュージック・シェアリング」

国連平和大使に任命された世界的ヴァイオリニストの五嶋みどりさんが代表を務めるNPO団体。同会は、西洋音楽を聞く機会に恵まれない途上国の人々に対してコンサート活動を行っている。今回は、五嶋みどりさん等が12月20日から27日までカンボジアを訪問し、各地で弦楽四重奏の演奏を披露した。

当会は、この事業に対して、コンサート実施校の調査、日程調整など全面的に協力した。また、同時期に開催した当会スタディツアー参加者に対して、コンサート会場にて演奏を聞く機会を提供した。

3. 各種会議

(1) 会員総会

2007年5月26日（土）に、高輪区民センター集会所にて会員総会を実施した。

(2) 理事会

今年度は8月を除いて毎月理事会を開催し、種々案件を検討した。開催期日と審議事項は表の通り。尚、主な重要決定事項は、個人情報保護法に関する規則の制定（第60回）、事務所移転に伴う住所変更（第61回）、プノンペン事務所就業規則の改定（第67・68回）等があげられる。

(3) 運営協議会

理事と事務局の情報共有や運営に関する討議の場として、運営協議会を毎週火曜日に実施した。開催回数は30回だった。

(4) 事務局ミーティング

スタッフや定期ボランティアの情報共有の場として、定例的に金曜の午前中にミーティングを行った。

(5) マンスリーミーティング

ボランティアによる月例ミーティングを毎月第1土曜日に実施した。ミーティング参加者が中心になって、事務局とボランティアが情報を共有する機会を創出し、各種イベント参加、広報活動、合宿などを企画実施することができた。また、専門分野、旅行などの経験に参加者に報告してもらう「プチ報告会」を併せて開催し、カンボジア派遣の隊次を越えた交流の場となった。

4. 事業評価

(1) プロジェクト評価勉強会

2008年度の評価実施に向けて、2007年1月より3月まで、理事と職員による勉強会を実施した。実施に際して、JICA地球ひろばの助成金(NGO強化のためのアドバイザー派遣)を受けることになり、NPO法人アイユス仏教国際協力ネットワークより2名の専門家を招くことができた。

勉強会の目標として、評価に関する専門的知識を学ぶ、評価対象を検討し評価デザインを完成させる、の2つを掲げ、当会の学校建設と教育支援事

業について検討することができた。

2008年度は秋の評価実施に向けて、東京事務所及びフロンペン事務所で勉強会を継続することになっている。

5. 事務所移転

(1) 新事務所移転

みなとNPOハウスの閉鎖に伴い、2007年7月1日より、東京事務所を港区浜松町の宮下ビル4階に移転した。また、支援物資の保管倉庫を確保するために各所に働きかけた結果、最終的に大田区西馬込の保管スペースを借りることができた。

6. 体制

(1) 役員の体制

当会の現役員は一覧表の通り。(2008年3月31日現在)

役職名	氏名
代表理事	笹平(小山内)美江子
副代表理事	二谷英明
副代表理事	今川純子
理事	二木日出丸
理事	佐伯蘭子
理事	山岡修一
理事	佐谷隆一
理事	高橋久
理事	松本伸夫
理事	立石義明
理事	脇田知子
理事	吉岡健治
理事	岩本宗孝
監事	青野達司
監事	中本順夫

(2) 事務局の体制

東京事務所

理事(常勤)4名、有給職員(常勤)8名(1名は9月採用、1名は9月末に退職、1名は3月にフロンペン事務所に異動)、定期ボランティア3名の計15名が運営に携わった。

フロンペン事務所

日本人有給スタッフ6名(1名は5月退職、1名は7月採用、1名は3月に東京事務所から異動)、ローカルスタッフ8名の合計14名が運営に携わった。

ボランティア

2007年度は、年間で延べ1155名が国内でのボランティア活動に携わった。前年度の実績は982名であったため、約20%の増加となった。また、活動時の事故や怪我に対して会が補償をする為のボランティア保険に71名加入した。